

大田記念病院一日医療体験

11月2日に福山市にある大田記念病院で1日医療体験を実施した。この研修は、SSH事業として、平成25年度から、同病院の理事長で、高37回卒の大田泰正氏のご厚意で行わせていただいている。例年は、夏休みに行っていたが、今年度は、諸般の事情により、11月の実施となった。高校生は業者の模擬テスト実施日であったため、中学3年生のみを対象とした研修となった。23名の生徒が参加し、医師、看護師、薬剤師、技師、療法士、管理栄養士の6コースに分かれての実習も行われた。

冒頭、少子高齢化社会をテーマにした講演が行われた。その後、各分野から仕事内容、進路について、やりがい等々のプレゼンテーションが行われた。例えば、病院における管理栄養士の仕事としてイメージされるのは、「病院食を作る」程度ではないかと思われるが、実際には、患者それぞれの状態に応じてお米の固さを変えたり、調味料の量を調整したり、するばかりではなく、直接患者へのヒアリングや指導を行うなど、治療の一翼を担っている。それぞれの分野が想像していたよりもはるかに直接患者と触れ合い、活躍の場も広いことを学んだ。

心肺蘇生法の実習も行った。想像以上に力が必要で、特に女子は、最初はきちんとできなかった。ちょっとしたコツを教えていただき、30分ほどで、全員が蘇生法を身につけた。使う場は無い方がよいに越したことはないが、倒れた人が「呼吸をしてない」と思われたら、行えばよいとのこと。医療のプロでも、現場で手の感覚だけで、脈の有無を感じることは難しいのだとか。もし、心臓が動いていれば、蘇生法を行うと苦しくて何らかの反応があるので、やめればよい。分からなくて蘇生法の開始が遅れることの方が、問題だとのこと、「なるほど」と思わされた。

実習は、それぞれの分野に分かれ、病院内各所で見学や実習を行った。医師班は、人形を用いて、器官挿入の実習を行った。プロは簡単にささっと行っていたが、いざやってみると、意外と力が必要で、悪戦苦闘した。

驚きと発見の連続で、充実した時間となり、約6時間に及ぶ研修であったが、あっという間であった。

